

19年度より、私立大等経常費補助を大幅見直し！

定員割れへの“減額強化”、定員割れ解消策への“特別補助新設”。
大学の“機能分化”を補助金で後押し

旺文社 教育情報センター 18年12月

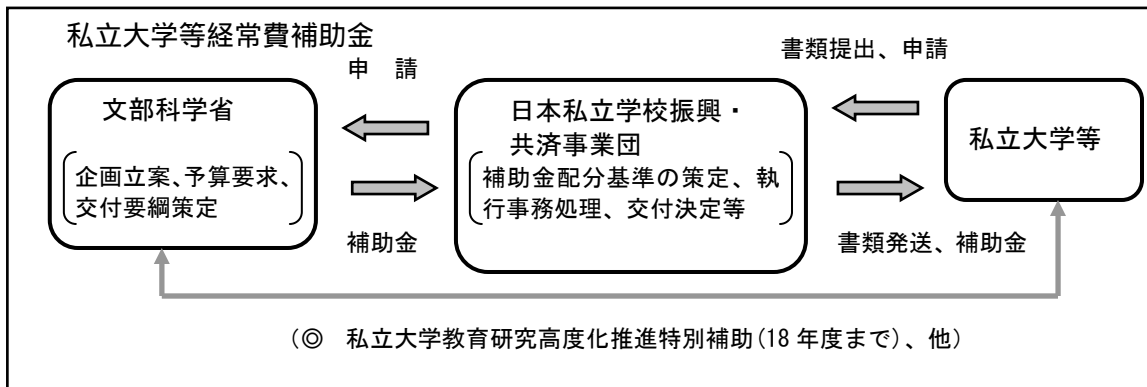
私立大等(私立大、短大、高等専門学校)への経常費補助が、個性豊かで活力ある私学づくりを目指して、19年度予算から大幅に見直される。

経常費の基盤的補助として不可欠な「一般補助」については、定員割れに対する助成の減額を強化する一方で、具体的な経営改善の取組みを支援する「特別補助」を新設。

また、従来の「特別補助」を改組・メニュー化して、各大学の特色を活かせるきめ細かな支援を図り、大学の穏やかな“機能分化”を後押しする。

私立大学等経常費補助金の仕組み & 算定

<仕組み> (概略)



経常費補助金

私立大学等経常費補助金は、

- ① 私立大学等の教育研究条件の維持向上のため、
- ② 学生の修学上の経済的負担の軽減等に資するため、
- ③ 私立大学等の経営の健全性向上に資するため、

日本私立学校振興・共済事業団が国から補助金の交付を受け、これを財源として全額、学校法人に対して私立大学等の経常的経費について補助するものである。

補助金の配分方法には、「一般補助」と「特別補助」とがある。

なお、19年度予算は3,281億円(前年度比1%減;概算要求額は3,362億5,000万円)。
一般補助(19年度概算要求額;2,203億7,900万円)：

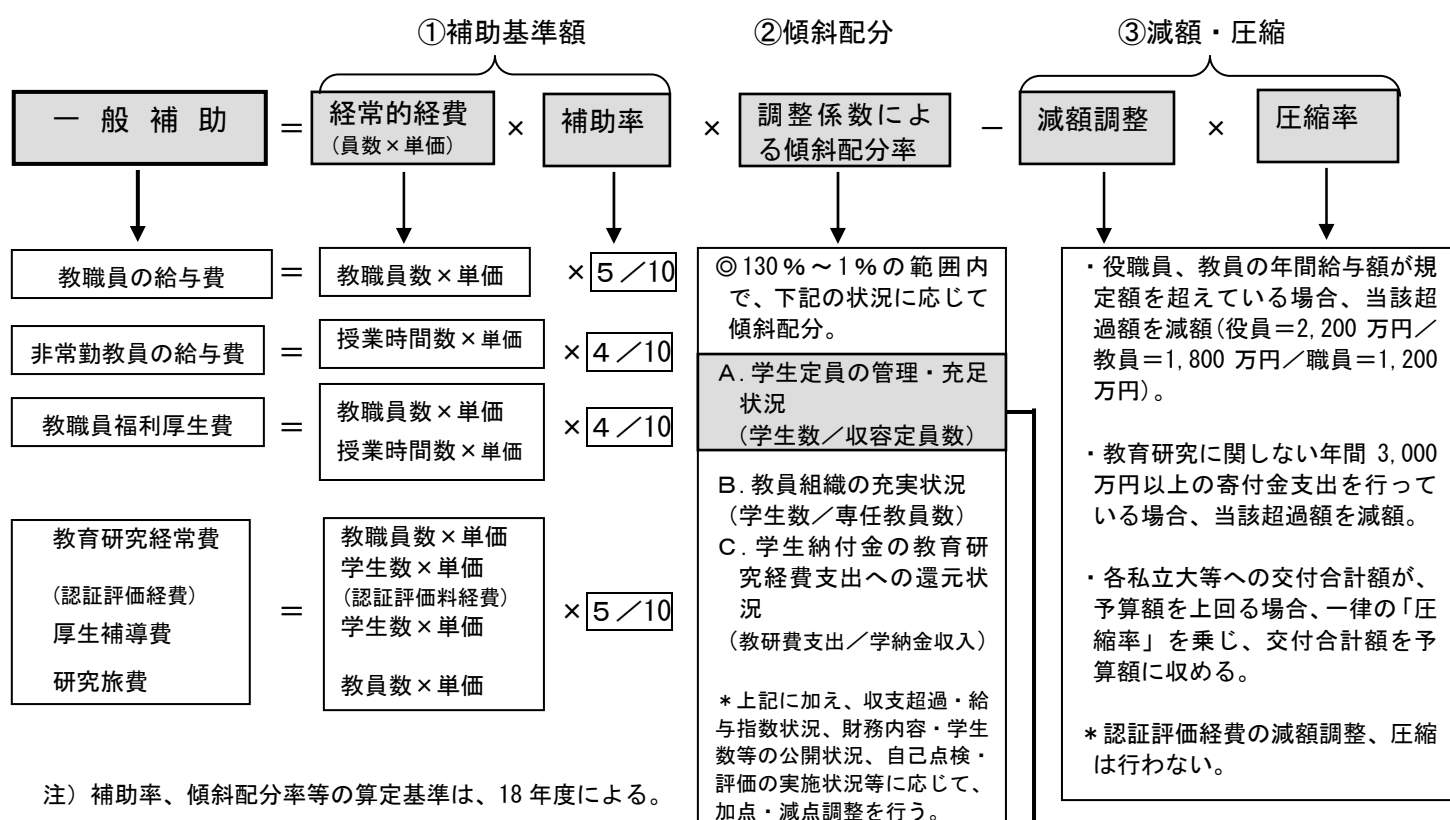
各私立大学等における専任教員数・職員数及び学生数を基に、学生定員の管理状況(収容定員や入学定員の超過率など)や教員組織の充実度、学生納付金の教育研究経費等への還元状況等に応じて交付される。

特別補助(19年度概算要求額；1,158億7,100万円)：

18年度までは、生涯学習、インターンシップ、高大連携、外国人留学生の受入れの推進など、社会的要請の強い特色ある教育研究の実績に対して交付されてきた。19年度からは、各大学の特色を活かせるきめ細かな支援(後述)や、再チャレンジ支援、少子化対策、特定分野の人材養成支援など、大学の多様な機能と現代的な課題に対応できるよう、補助項目が見直されている。

なお、文部科学省が直接交付する「私立大学教育研究高度化推進特別補助」(14年度創設)は、19年度から「特別補助」に統合される。

<「一般補助」の算定方法>(概略)



注) 補助率、傾斜配分率等の算定基準は、18年度による。

定員割れが続いている大学等について、一定期間で改善傾向が見られない場合、「減額強化」!

定員割れ解消等に向け、募集停止、改組転換、定員減や統合等により適正規模への脱皮を図る大学等を支援。19年度、4億円新設。

- ★次の場合、補助金は不交付又は減額：19年度
- ①不交付：ア 定員超過率 収容定員 1.58倍以上 (1.60倍以上)
入学定員 1.43倍以上 (1.44倍以上)
<医歯学部 1.10倍以上>
 - イ 欠員率 収容定員 50%以下
 - ②減額又は不交付措置：法令違反、財務状況不健全、管理運営不適正、等

注) () 内は、18年度の基準

<「特別補助」の改組・メニュー化> (19年度概算予算額; 1,032億2,900万円)

A. 地域社会のニーズに応える教育の推進 (77億2,900万円)

<申請ゾーン:A>
地域の知の拠点としての高等教育機関
の地域貢献を支援
<主なメニュー>
○地域の知の拠点活性化支援
○地域の子育て・ものづくり支援
○地域教育コンソーシアム形成支援
○地域共同研究支援、等

B. 個性豊かで多様な教育の推進 (473億円)

<申請ゾーン:B>
個性豊かで多様な教育を行う大学等を
支援
<主なメニュー>
○教育・学習方法等改善支援
○単位互換・インターンシップの推進
○高度情報化の推進
○外国大学等との学生の交流支援、等

C. 教育研究活動の高度化・拠点の形成 (482億円)

<申請ゾーン:C>
科学技術基本計画等に対応した教育研
究活動の高度化を図る大学を支援
<主なメニュー>
○大学院の基盤整備・拠点重点化支援
○研究連携コンソーシアム形成支援
○学術研究高度化推進
○OTA, RA, PD等の支援、等

■大学の機能的分化■

<7つの機能>

競争的環境の中での各大学の個性・特色の明
確化と質の保証が一層重要。大学のもつ機能と
して、次の7項目が挙げられている。

世界的研究・教育拠点

高度専門職業人養成

幅広い職業人養成

総合的教養教育

特定の専門的分野(芸術、体育等)の教
育・研究

地域の生涯学習機会の拠点

社会貢献機能(地域貢献、産学官連携、国
際交流等)

大学はその使命を果たすべく、上記のような
各種の機能を併有するが、それぞれの大学によ
って持っている機能や比重の置き方が異なる。
保有する機能や比重の置き方が各大学の個性や
特色となって表れ、各大学は穏やかに“機能別
に分化”していくという。

(中教審答申、『我が国の高等教育の将来像』17年1月より)

大学の個性・特色の発揮を支援
穏やかな“機能分化”を後押し